

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

岩手県における肝炎医療コーディネーターの育成とスキルアップの歴史と変遷

研究分担者：宮坂昭生 岩手医科大学 内科学講座消化器内科分野 准教授

研究協力者：吉田雄一 岩手医科大学 内科学講座消化器内科分野 助教

佐々木純子 岩手医科大学 内科学講座消化器内科分野

佐々木琢磨 岩手県保健福祉部医療政策室

研究要旨：本年度は、岩手県における肝炎医療コーディネーター（Co）養成研修会とスキルアップ講習の歴史と変遷について検討を行った。

(1) 岩手県における肝炎医療 Co 養成研修会の歴史と変遷

① 県主導で 2011 年度より肝炎医療 Co 養成研修会を開始し、2011 年度～2023 年度までに 451 名の肝炎医療 Co を養成し、全市町村への配置は完了した。

② 2011 年度は現地に集合し、午後のみ講義を行う開催形式であったが、2012 年度～2017 年度までは集合形式で午前から午後にかけて講義を受講、その後、認定試験を行っていた。2016 年、2017 年に実施した肝炎医療 Co へのアンケート調査で、肝炎医療 Co 間の情報やコミュニケーションの不足が窺われたため、2018 年度より集合形式で午前に講義、午後にワークショップを行い、その後、認定試験を行う形に変更した。だが、2020 年度はコロナ禍であったため、Web 上で期間内に必須である 6 講義を聴講後に Web 上で認定試験を受けてもらったが、2021 年度からはさらに期間内に Web 上で必須である 6 講義を聴講後、Web 上でワークショップと認定試験を受けてもらった。

③ 認定試験は 2012 年度より導入され、マルチプルチョイス形式で行われている。2012 年度～2019 年度までは現地で行っていたが、2020 年度以降は Web 上で行っている。

④ 更新については、3 年毎としているが、更新するためには、再度、講義を聴講し、ワークショップに参加して認定試験を受ける必要がある。

(2) 岩手県における肝炎医療 Co スキルアップ講習の歴史と変遷

岩手県では肝炎医療 Co スキルアップ講習は行っていないが、2019 年度～2021 年度は製薬会社の協力得て「肝炎医療 Co Skill up Seminar」を行った。

A. 研究目的

肝がんの主な原因はウイルス性肝炎であるが、C型肝炎は治療法の進歩により、副作用の少ない内服薬で、慢性肝炎から非代償性肝硬変まで治療が可能となり、ウイルス排除率は約95%以上となった。したがって、肝炎ウイルス検査を「受検」し、ウイルス感染が疑われる場合は精密検査を受けるために医療機関を「受診」して、感染が確認されれば抗ウイルス薬による治療を「受療」し、さらに治療後も定期的な検査を受け、肝発がんの有無をみてゆく「フォローアップ」が大切となる。こうした「受検」「受診」「受療」「フォローアップ」の各ステップで役割を発揮することが期待されているのが肝炎医療コーディネーター(Co)であり、その育成が全国で行われている。岩手県においても2011年度より養成が始まり、毎年、養成研修会を行い、2011～2023年度までに451名が肝炎医療Coの認定を受け(図1)、全市町村への配置を完了した。

	受講者	認定者	
		新規	更新
H23	42	42	
H24	29	29	
H25	25	24	1
H26	57	48	9
H27	40	31	9
H28	44	24	20
H29	53	32	21
H30	54	37	17
R1	33	28	5
R2	53	32	21
R3	67	45	22
R4	54	39	15
R5	62	40	22
計	631	451	162

図1. 岩手県における肝炎医療Co養成研修受講者および認定者数

今回、岩手県における肝炎医療Coの育成とスキルアップの歴史と変遷について報告する。

B. 研究方法

岩手県の(1)肝炎医療Co養成研修会と(2)スキルアップ講習の歴史と変遷について検討を行った。

(倫理面への配慮)データは個人を特定できる属性情報を削除して用いているため、倫理面の問題はない。

C. 研究結果

(1)岩手県における肝炎医療Co養成研修会の歴史と変遷

岩手県では、県主導で2011年度から2023年度まで肝炎医療Coを養成してきた。2011年度は現地に集合し、午後のみ講義を行う開催形式(図2)であったが、2012年度～2017年度までは集合形式で午前から午後にかけて講義を受講、その後、認定試験を行い、合格者を肝炎医療Coに認定してきた(図3)。

カリキュラム			担当 鈴木一幸 (岩手医科大学医学部消化器・肝臓内科分科教授)
時間	講義テーマ	講師	
13:00	HBV・HCVキャリアの実態	小山重子	岩手県予防医学協会医療技術部長
15	B型肝炎の知識	宮坂昭生	岩手医科大学医学部内科学講座 消化器・肝臓内科分野助教
14:00	C型肝炎の知識	阿部弘一	あべ薬業内科クリニック院長
45	ディスカッション		
14:00	休憩		
25	岩手県の肝炎対策と 診療ネットワークシステム	鈴木一幸	岩手医科大学医学部内科学講座 消化器・肝臓内科分野教授
45	肝疾患患者に対する支援方法	三浦幸枝	岩手医科大学附属病院看護課
16:05	肝疾患患者からの相談内容等	阿部洋一	肝友ネット代表
25	総合ディスカッション		
17:00			

図2. 2011年度 養成研修会プログラム



図 3. 2012-2017 年度 養成研修プログラム

しかし、2016 年、2017 年に実施した肝炎医療 Co へのアンケート調査では、肝炎医療 Co 間の情報やコミュニケーションの不足が窺われた(図 4)ため、2018 年度より集合形式で午前中に講義、午後にワークショップを行い、その後、認定試験を行う形に変更した(図 5)。



図 4. 肝炎医療 Co へのアンケート調査



図 5. 2018 年度肝炎医療 Co 養成研修会の変革

だが、2020 年度はコロナ禍で集合形式での開催が困難となったため、新たな試みとして、online での肝炎医療 Co 養成研修会を実施した。Web 上で期間内に必須である 6 講義を聴講した者に認定試験を受けてもらったが、2021 年度からはさらに期間内に Web 上で必須である 6 講義を聴講した者にワークショップと認定試験を受けてもらい、合格者を肝炎医療 Co として認定した(図 6)。

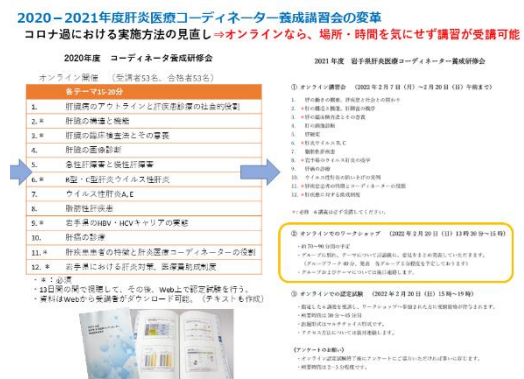


図 6. 2012-2017 年度 養成研修会プログラム

認定試験について、岩手県では、2012 年より導入され、マルチプルチョイス形式で行われている。集合形式で行われた 2012 年度～2019 年度は 30 分で、Web と

なった2020年度～2023年度は4時間の間に回答して頂いている。

更新については、3年毎としているが、更新するためには、再度、講義を聴講し、ワークショップに参加して認定試験を受ける必要がある。

岩手県の肝炎医療 Co 養成研修会の変遷を図7に示す。

年度	開催場所	講義	テキスト	ワーク ショップ	認定 試験	問題数	時間	定員性	更新
H23 2019	現地	現地：6講義	○		○	20問	30分	無	有(3年)
H24 2019	現地	現地：8講義	○		○	20問	30分	無	有(3年)
H25 2019	現地	現地：11講義	○		○	20問	30分	無	有(3年)
H26 2019	現地	現地：12講義	○		○	20問	30分	無	有(3年)
H27 2019	現地	現地：12講義	○		○	20問	30分	無	有(3年)
H28 2019	現地	現地：12講義	○		○	20問	30分	無	有(3年)
H29 2019	現地	現地：14講義	○		○	25問	30分	無	有(3年)
H30 2019	現地	現地：6講義	○	○	○	25問	30分	無	有(3年)
R1 2019	現地	現地：5講義	○	○	○	?	30分	無	有(3年)
R2 2020	オンライン	オンライン配信12 講義 (必須5講義)	○	-	(Web)	20問	4時間	無	有(3年)
R3 2021	オンライン	オンライン配信12 講義 (必須5講義)	○	○	(Web)	23問	4時間	無	有(3年)
R4 2022	オンライン	オンライン配信11 講義 (必須5講義)	○	○	(Web)	23問	4時間	無	有(3年)
R5 2023	オンライン	オンライン配信11 講義 (必須5講義)	○	○	(Web)	23問	4時間	無	有(3年)

図7. 岩手県の肝炎医療 Co 養成研修会の変遷

(2) 岩手県における肝炎医療 Co スキルアップ講習の歴史と変遷

岩手県では肝炎医療 Co スキルアップ講習は行っていないが、2019年度～2021年度は製薬会社の協力得て「肝炎医療 Co Skill up Seminar」を行った(図8)。



図8. 肝炎医療 Co Skill up Seminar

D. 考察

肝がんの主な原因が肝炎ウイルスであることより、肝炎ウイルス検査を「受検」し、ウイルス感染が疑われる場合は精密検査を受けるために医療機関を「受診」して、感染が確認されれば抗ウイルス薬による治療を「受療」し、さらに治療後も定期的な検査を受け、肝発がんの有無をみてゆく「フォローアップ」を進めてゆくことにより肝がんを予防してゆくことが重要である。そのためには、各ステップを効率よく行なう方策が必要であるが、「受検」「受診」「受療」「フォローアップ」を進めてゆくうえで肝炎医療 Co の働きが不可欠であると考えられる。本年度は、岩手県における肝炎医療 Co 養成研修会とスキルアップ講習の歴史と変遷について検討を行ったが、岩手県では、県主導で2011年度より肝炎医療 Co の育成をはじめ、全市町村への配置が完了した。2011年度は集合形式で午後からの講義であったが、2012年度より午前から午後にかけて講義を受講し、その後に認定試験を行い、1日ですべてを終了するといった形式で行っていたが、2016年、2017年に実施した肝炎医療 Co へのアンケート調査では、活動上必要な事項として、「肝炎医療 Co 養成研修会」という回答で、「最新の知識と治療法」や「行政制度」を知る機会が、実務に役立つ内容であったと好評であったが、履修項目が多く負担が大きいという意見もあった。また、「行政担当者、拠点病院、または肝炎医療 Co 同士の意見交換」も必要であるとの回答を得たことから、2018年度からは午前中の講義を厳

選し、肝炎医療 Co に必要最小限の講義を行い、午後にワークショップを開催し、その後に認定試験を行う形式に変更した。しかし、2020年度はCOVID-19流行の影響もあり、Web上で期間内に必須である6講義を聴講した者に認定試験を受けてもらった。2021年度からはさらに期間内にWeb上で必須である6講義を聴講した者にワークショップと認定試験を受けてもらった。自分の時間や都合で講義を聴講してもらえると利点がWeb講義の利点であり、Webでのワークショップは広い県土を移動する時間が節約できるため、受講者には好評であった。

認定試験について、2012年度～2019年度は集合形式で、2020年度～2023年度はWeb上で回答して頂いているが、今後、出題内容、出題形式などについて再考してゆく必要があると思われる。

更新については、3年毎としているが、更新するためには、再度、講義を聴講し、ワークショップに参加して認定試験を受ける必要があるため、更新者にとってはハードルが高く、更新者が減る要因となっていると考えられるため、今後、更新の要件を再度吟味する必要がある。

岩手県では肝炎医療 Co スキルアップ講習は行っていないが、今後、岩手県で年2回行っている肝炎診療ネットワーク研修会を有効活用するなどの方策を考えてゆく必要があると思われる。

E. 結論

岩手県における肝炎医療 Co 養成研修会とスキルアップ講習の歴史と変遷に

ついて検討を行った。

(1) 岩手県における肝炎医療 Co 養成研修会の歴史と変遷

①県主導で2011年度より肝炎医療 Co 養成研修会を開始し、2011年度～2023年度までに451名の肝炎医療 Co を養成し、全市町村への配置は完了した。

②2011年度は現地に集合し、午後のみ講義を行う開催形式であったが、2012年度～2017年度までは集合形式で午前から午後にかけて講義を受講、その後、認定試験を行っていた。2016年、2017年に実施した肝炎医療 Co へのアンケート調査の結果を踏まえ、2018年度より集合形式で午前に講義、午後にワークショップを行い、その後、認定試験を行う形に変更した。だが、2020年度はコロナ禍であったため、Web上で期間内に必須である6講義を聴講後にWeb上で認定試験を受けてもらったが、2021年度からはさらに期間内にWeb上で必須である6講義を聴講後、Web上でワークショップと認定試験を受けてもらった。

③認定試験は2012年度より導入され、マルチプルチョイス形式で行われている。2012年度～2019年度までは現地で行っていたが、2020年度以降はWeb上で行っている。

④更新については、3年毎としているが、更新するためには、再度、講義を聴講し、ワークショップに参加して認定試験を受ける必要がある。

(2) 岩手県における肝炎医療 Co スキル

アップ講習の歴史と変遷

岩手県では肝炎医療 Co スキルアップ講習は行っていないが、2019 年度～2021 年度は製薬会社の協力得て「肝炎医療 Co Skill up Seminar」を行った。

1. 特許取得
特記事項なし
2. 実用新案登録
特記事項なし
3. その他
特記事項なし

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

- ・全国で統一したカリキュラムに加え、地方の事情や特性を考慮して、肝炎医療 Co 養成研修会を行ってゆく必要がある。
- ・継続した活動ができるよう岩手県における更新要件を再考することが必要であると考えられる。
- ・岩手県においてスキルアップ研修も検討してゆく必要がある。

<研究活動に関連した実務活動>

実務活動として、岩手県肝炎医療 Co 養成研修会の企画し、実施している。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- 1) 黒澤美甫、吉田雄一、宮坂昭生. 多職種連携で肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業助成対象者の拾い上げ活動についての検討. 第 59 回日本肝臓学会総会(奈良)2023 年 6 月. 肝臓, 64 巻 Suppl. 1; A317, 2023

H. 知的財産権の出願・登録状況